

平成 27 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対談 (名張市) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 9 月 3 日 (木) 10 時 00 分～11 時 00 分

2. 対談場所

名張市子どもセンター 2 階大研修室
(名張市百合が丘西 5 番町 25 番地)

3. 対談市町名

名張市 (名張市長 亀井 利克)

4. 対談項目

若者定住促進プロジェクト

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 民産学官の連携 | ①高等教育機関への支援 |
| 2 民産学官の連携 | ②地元雇用の拡大 |
| 3 空き家の活用 | ①リフォーム助成の充実 |
| 4 空き家の活用 | ②特定空き家等に対する措置 |

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さん、おはようございます。亀井市長におかれましては、本日の 1 対 1 対談の時間を確保していただきましてどうもありがとうございます。また、多くの傍聴の皆さんも来ていただきまして、平日早朝からたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。今回で 5 回目となります 1 対 1 対談ですけれども、この名張市においては亀井市長が毎回しっかりテーマを設定していただいて、それをしっかり議論していこうというようなことでこれまでもやってまいりました。医療や少子化等々やってきまして、ちょうど前回、「もっと県も移住のこと、しっかり力を入れてやっていってよ」というようなことから、今回若者の定着ということで、その辺りの、前回市長におっしゃっていただいてから県で取り組んだ移住の話等も、のちに前回の続きのような形でご報告できればと思いますが、最近名張市でも色々亀井市長がやっていただいている政策で国の方でも非常に注目を浴びている政策もたくさんあります。まずは名張版ネウボラでありまして、これは先般 7 月も厚生労働大臣の塩崎大臣が視察に来られて大変感銘を受けておられましたし、またこの 8 月の末に、たまたま私が女性の活躍関係の国際シンポジウムで山本厚生労働副大臣と隣の席で昼食を食べ

ているときも、名張のネウボラの話になりましたし、大変国も注目するそういう施策をリードしていただいているそれが名張市であるというふうに思っています。

あわせて、最近小学校の跡地を活用しての企業誘致というのを先進的に何件も取り組んでいただいているというのは大変素晴らしいことだと思います。今日のテーマにも関係しますが、やはり今、人口減少・地方創生が言われている中で、働く場があるかどうかということが大変重要なことであるというふうに思っておりますので、それを自分の所の資産を活用して小学校の跡地に企業を呼んできて、そして働く場を作るということを先進的に取り組んでいただいていることも全国で注目される、そういうものではないかなとそうのように思います。そういうことも含めまして、この地域の未来を考えていく上で大変重要な若者の定着、そういうことについての議論を、今日市長と一緒にやらせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございます。

名張市長

どうも皆さま、おはようございます。平日にもかかわらず大勢の皆さまがお運びをいただきました。御礼を申し上げますし、またその皆さま方には日ごろからも市政各般にわたりましてご指導、あるいはご高配いただいているわけでございまして、重ねて御礼を申し上げます。また今日は鈴木知事には大変ご多繁の中、昨日、テレビを見せてもらっていたら総理官邸で「(伊勢志摩サミットの) ロゴマークの選定をどうしていくか」というようなことで話題になっておりましたけれども、そのうちにまた、三重テラスでのイベントにも参加をされておりました。帰ってきて、今日ここ 11 時に出て、すぐまた県外で会議があるということでございまして、くれぐれも事務局のほうから「時間厳守で」と言われておりますので、11 時までには終わりたいと、こんなふうに思わせていただいております。よって無駄なく簡潔にいきたいと思っておりますので、ちょっと時間がまた余れば、今県政にとって最大のテーマとなっておりますが、来年の 5 月 26 日・27 日伊勢志摩サミット。三重県にとりましては今世紀最大のイベントともなるわけでございまして、三重の魅力を世界に発信していくビッグチャンスが訪れたということでございまして、知事の思いも時間があつたら披瀝いただければとこんなふうに思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと存じます。それではよろしく願いします。

(2) 対談

1 民産学官の連携 ①高等教育機関への支援

名張市長

今私どもの地方自治体の最大のテーマとしておりますのが地方創生の取り組みでございます。少子高齢化がどんどん進行してきまして、我が国も 2008 年、平成 20 年をピークに人口減少に転じたわけです。これがまた加速してきている。大変だ。都市部へどんどん若者が集まっていったらそこで出生数が落ちるものですからどんどん減少していく。何とか地方を元気にして、若者を地方で食い止める、それが地方創生の最も大きなテーマでもあるわけでございます。

名張は昭和 40 年代から大阪のベッドタウンとして人口がどんどん膨れてきました。30,000 人口が一挙に平成 12 年に 85,000 人になったわけでございます。一方で、その後微減が続いておりまして、現在 80,600 人ということでございますから、この 15 年の間に 4,500 人の人口が減少したとこういうことございまして、平均しますと大体 300 人ぐらいが毎年減少している。逆に、世帯数が 300 世帯ぐらい増えているんです。よって、核家族化がどんどん進んでいるということでございまして、20 年後には、独居老人の方がなんと 40%になると、こういう推計もあるわけございまして、そんなことから地域づくりを今、一生懸命やっただけでいるということであるわけでございます。それで、我々の人口ビジョンにつきましては 2040 年に 70,000 人の人口を維持していこうと。そのためのプロジェクトを今組んでいるところでございますけれども、総合戦略と言うんですが、3つの大きな柱があります。1つ目は「元気創造プロジェクト」、2つ目に「若者定住プロジェクト」、3つ目に「生涯現役プロジェクト」。これは、3つが別々に走るということではなくて、絡みながら、連携協働しながら動くわけでございますが、今日は、特に若者定住ということをテーマにしてこのお話し合いをさせていただければ、とこんなふうに思っています。

それで、先ほど司会の方もおっしゃっていただきました通り、1つ目の大きなテーマが「民産学官の連携」ということの中で「高等教育機関への支援」ということです。都市部へ転出される方のほとんどが 15 歳から 29 歳の方なんです。これは進学・就職・結婚とこういうことになるわけでございます。この進学、それから就職、これを何とか地元へできるだけ留めたいなとこういう思いがあるわけでございます。名張にはご案内の通り、近畿大学工業高等専門学校という実学主義の素晴らしい学校があるわけでございます。就職率 100%。なんとひとりの学生に対して 30 社から引き合いがあるわけございまして、そんなことから全国区であるわけでございます。近大高専さんもこれから地元密着も考えていかななくてはならないなということの中で、県が創設をいただきました高等教育機関魅力向上支援補助金、これに応募してもらいました。そうしたら見事、県のほうで採択をいただいた。こういうことございまして、これは御礼を申し上げておきたいと存じますし、高専の魅力をこれからどんどんアピール

していく、そして地域密着型をより推進していくんだとこういうふうなことでおっしゃっておりますので、まずその中で、私どもとしては、当然ながら名張の中学校、それから伊賀地区の中学校へはもうアプローチをさせていただいておりますけれども、県内で人を留めておくということは、やはり出身が三重県の方というのが理想なわけでもございますので、これから県内の他の地域の中学校の方へもどんどんPRに出かけさせていただければというふうに思っております、これにつきましては、色々かねてより県教委と色々なことがあったようにも聞かせていただいておりますが、県教委もこれからですね、協力をいただけるようお願いしたいというふうに思っております。

もうひとつは、県内の企業へ、また出口の部分ですが、就職いただくというのはこれは理想なわけです。全国区でして、先輩がいらっしゃる所が全国にいっぱいあるわけで、そういう所はその企業の魅力というのは分かっていますから、それは行きよいということがあります。かねてから、近大高専さんが名張に来ていただいたときに、名張の企業が「近大高専さんをお願いしているんですけど見向きもしてくれないんです。なんとか地元へ来ていただいたので、地元の企業へも就職いただけるようお願いしてください。」ということの中で、毎年名張の企業へも就職をいただくようになったわけでもございますけれども、三重県の他の企業へも就職が叶えられるように、学生の人が必要な企業か分かるように、インターンシップの制度を是非ともしていただければというふうに思っています。我々も頑張ります。県もこのことについて最大限のご協力を県内企業をお願いをいただければというふうに思っておりますので、まず最初にこの2点について、県教委の協力とそれから県内企業へのインターンシップ制、何とかお願いできないか、こういうことでございます。

知 事

はい、ありがとうございます。その2点の前提となる全体像をお話ししますと、今名張の人口の動態について亀井市長からありました。県の方は大体人口が181万人超でありまして大体どんな感じで減っているかということ、毎年自然減、生まれる人と亡くなる方、これで5,000人減っています。亡くなる方が5,000人多いということですね。で、社会減、転入転出、これで大体3,000人です。なので、自然減の方が若干多いというような形になりますが、これは地域によって29市町によって違います。例えば名張は自然減はほぼトントンですけれども、社会減で減っているというような状況ですので、これは大体色々な地域によって違うのですが、県全体としてはそういう感じですね。で、今高専を含む高等教育機関の話がありますけれども、県の高等教育機関の状況というのは、なかなか厳しい状況です。四年制大学の話になりますけれども、高校生

で四年制大学にいく子が県内全体で大体 8,000 人ぐらい、そのうち、県内にある四年制大学等の定員は 3,000 人しかないんですね。8,000 人の子たちが、仮に三重県内の大学に全部行きたいといっても行くキャパが無いんですね、定員が無いんですね。行きたい人分の定員（定員／行きたい人）、これを「大学収容力指数」って言いますが、大学収容力指数は、三重県は残念ながら全国 46 位（平成 25 年度）ということで、非常にですね、高等教育機関の量そして今からお話しする質の問題においてまだまだニーズを十分にとらえきれていない、そういうことがあります。先般、県内の高校 2 年生と保護者に対するアンケートを行いました。「これからも県内に住み続けたいな」と思う人が 57%でした。「一回ちょっと出ても、最終的に三重県に住み続けたいな」という人が 81.5% というような状況だったので、じゃあ高校 2 年生の人たちに「進学先を選ぶ決め手は何ですか」というふうに聞いたら「学びたい領域があるかどうか」というのが 60 数%、これが一番高かったんです。それから、のちの話にも関係するんですけど「進路先を選ぶときに誰の意見を聞きますか？」というのを高校 2 年生に聞いたところ、1 番は母親 70.3%。で、高校の先生 62.8%。お父さん 47.4%。ということでお母さんの影響が強いので県内に色々な近大高専含むいい教育機関があるよ、ということとか、あるいはこういう働く場所があるよ、ということをお母さんにも知ってもらおうということが大変重要であるというふうに思っていますが、本来は定住、あるいは県内に留まりたいなと思っていても、まず武者修行的に「俺は〇〇大学、とりあえず県外に行って、それからまた戻ってくるんだ」という志でいるのは全然そういうのを否定するつもりはないんですが、県内に留まっていたいと思っっているのに留まっていられない、ということはこれはやはり希望が叶わないということなので、それは良くないと思いますからそれを何とか改善していこうという中で、じゃあその学びたい領域が、あるいはその進んでいく高等教育機関が魅力的なものであってほしいということで先ほど亀井市長からご紹介いただいた、3 つに限定して、県が補助金を出して自分の所の高等教育機関を魅力的な中身のものにしていこう、というものの 3 つの内のひとつが近大高専なんですね。近大高専は先ほど正に亀井市長がおっしゃっていただいたように今回補助金を採択するにあたって 2 つ目標を立ててくれています。ひとつは、県内からの入学者を増やします。これは、平成 27 年、今年ですね、大体 200 人ぐらいのやつを平成 30 年には 220 人にしましょう、という目標を立ててくれています。それからもうひとつ、卒業後に県内に定住する割合を増やしましょう、という目標を立ててくれています。これは、平成 26 年に 17 人だったやつを平成 29 年には 40 人にします、というようなことで、県内からの入学者を増やす、県内に定着してくれる人を増やす、こういうような目標を近大高専さんは掲げていただいていますので、それをしっかり応援して

いきたいというふうに思います。そんな中で、今亀井市長からあった 2 点ですけども、1 点、県内からの入学者を増やすために色々な県内の学校に、高専含む高等教育機関や色々な教育機関の情報を提供していくということについては、しっかり積極的にやっていきたいというふうに思っていますので、これは特に高専は、選択肢に場合によっては挙がりにくいところもあって、もの作りとかに関心のある人は、特に高専は、本当に東京等にある大企業に就職する人がかなり多いですから、非常に一定の分野では人気があるんですけど、まだまだ知られていない部分がありますので、実はそういう選択肢があるんですよ、というようなことについては積極的に知ってもら。特にさっきも言ったお母さんにも知ってもら、そういう努力もしていきたいというふうに思います。それから近大高専を卒業した子たちが県内の企業に勤めるために、県内の企業を知るためのインターンシップ、これについても経済団体に働きかけたり、三重県には近大高専含む 13 の高等教育機関があるんです。高専とか大学とか短大とか。その高等教育機関 13 でコンソーシアムというひとつの連携体を組んでもらって、自分の所だけよければいいというのではなくて、その 13 が連携して 13 で全体の魅力を高めていこうと。たまには、近大高専行きながら皇學館の単位をとれるようにしようよとか、近大高専にいるけれども三重大学の授業をとってその単位をとれるようにしようよとか、一緒になって県内の企業の研究をするインターンシップをやっていく枠組みを作ろうよとか、そういうようなことで、自分の所だけよかったらいいよということではなくて、県内全体の高等教育機関が連携してやっていくような形でインターンシップを増やしていこうとか、あるいは経営者を招いた学生向けのセミナーや交流会をそういう所でやっていこうというふうにしったり考えておりますので、近大高専の学生にも多く参加をしていただければというふうに思っておりますし、そういうような働きかけ、そして私たちからはそういう受け入れてくれるような企業を 1 社でも増やしていくような働きかけをこれからもしていきたいとそのように思っています。

名張市長

はい、どうもありがとうございます。高等教育機関が県内に非常に少ないと、46 番目だと 47 都道府県中、ということの中で、その高等教育機関が連携協働してその魅力を発信して地元の方に来ていただく。そしてまた地元の企業に就職していただく。それを県当局も、そしてまた、29 の基礎自治体も協働してこれからやっていったら、そういうような定着も推進されていくのではないかとこんなふうに思っておりますので、どうかこれからもお願いをいたします。

2 民産学官の連携 ②地元雇用の拡大

名張市長

それでは、民産学官の連携の地元雇用の拡大について申し上げますけれども、名張はもう工業団地が完売しておりまして、大規模な生産工場の誘致というのは非常に難しいわけでございます。それで先ほど知事のほうからご紹介いただきましたが統廃合して空いた学校に色々な企業を誘致してきておりまして、長瀬小学校にはヤマト運輸のコールセンター、180名の方が雇用されております。滝之原小学校は松阪電算でございまして、今は20名ぐらいと思うんですが最終60名ぐらいにしていくんだと、こういうことをおっしゃっていただいておりますし、国津小学校はジャパングルメが今梱包だけしているんですけれども今後、加工もやっていこうと。こういうふうなことで、どんどんそういう空きの学校を活用いただいて、そしてそこで雇用が生まれてきているとこういうことでございます。

それと、今平成26年～平成28年の3ヵ年、厚生労働省のモデル事業といたしまして、実践型地域雇用創造事業というのに取り組ませていただいております。26年度は55名就労という目標の中で74名の方が就労が叶えられたということでございます。それで27年度も頑張ろうと思っているわけですが、特にこれから農業の6次産業化これを頑張っていきたいなと思っているんです。名張の地域資源をフルに活用した中でそういう雇用を生み出していこうとすれば農業というのも地域資源の大きなものでもあるわけでございます。これを何とか6次産業化していくと。加工、販売、ここまでつないでいこうと。こういうことで、今色々な計画を持っているわけでございます。それで、そういうふうなことをしていくについて、今実はもう開発した製品もたくさんあるんです。ドレッシングであったり、伊賀米コシヒカリというのは4年連続特A米の認定をいただいているわけですが、これのギフトセットであったり、色々なそういうのが出てきておりまして、今実は日本橋の三重テラスでこれの販売をさせていただいております。売れ筋というのが分かってきているんですが、それを今度、加工場を作っていただいたらそれをもっともっと生産していきますよと、こういうふうにおっしゃっていただいているわけです。そしてまたネット販売もやりましょうかと、こういうふうにおっしゃっていただいているので、今加工場の整備を滝之原小学校の給食室を何とかそういうふうなものに整備をしていきたいなというふうに思っております。国の制度あるいは県の制度、色々なファンド、銀行さんのファンドやら作っていただいておりますが、そういうものをフルに活用してそして整備をしていきたいと、こんなふうに思っておりますので、県についても全面的な技術面も含めてご協力をいただければ

とこんなふうに思っておりますのがひとつでございます。

それともうひとつはこの名張というのは企業誘致がもう叶いませんで、色々な仕事を興していきたいという若者であったり、あるいはちょっとしたもう芽が出かけた事業所もあるわけです。そういう所へ、民産学官が連携して支援することによってどっと伸びていくという、こういうようなことも叶えられるというふうに思っております、これ米国ではエコノミックガーデニングとこういうように言われているらしいんですけども、名張全体がエコノミックガーデニングだと。それは空き家等を活用してもいいわけでございますので、「名張へ行って起業しようか」という気分させられる、そんな環境を整えていく、そのためには民産学官がきちっと連携をしていかなければならない、その時に近大高専さん等にも支援をいただかなくてはなりませんし、これまで、県の色々な研究所でのノウハウもあるわけです。そういう技術も欲しいですし、人も一定期間は張り付いてでもやっていただければと、こんなふうに思っておりますので、このエコノミックガーデニングのようなものをつくっていく、そんな体制のために県が絶大なご支援をいただきたい、こんなふうに思っていますので、加工場の整備そしてこのエコノミックガーデニングの民産学官連携とこういうことについての知事のご所見をいただければというふうに思います。

知 事

はい、ありがとうございます。今、農業の6次産業化から様々な加工商品を作ってそれをどんどん売り出していこうということに、亀井市長非常に力を入れていただいております、さきほどご紹介いただいた三重テラスで、この8月から9月もテストマーケティングといって、いきなりお店屋さんに出すのではなくて、ちょっと三重テラスで売る練習してみて売れるかどうかやってみて、消費者の皆さんの意見とかを聞いてそれを改善するというのを、今「隠（なばり）タカラモノ」シリーズ商品の関係で、8月から9月テストマーケティングやっていこうというようなことで取り組みをしていただいたり、8月にはこの名張市の観光交流室さんの主催で、「奈良・三重連携講座」というので三重テラスを使っていただいて観光とか物産のPRというのをやっております。

そういう中で非常にいくつか好評なやつも出ていますので、今のテストマーケティングの結果とかを踏まえたりしながら三重テラスでそのままずっと置くとか、あるいは三重テラスのレストランで使っていくとかそういうこともぜひ考えていきたいと思っておりますので、またその辺りは具体的にそれぞれご相談をしていきたいなというふうに思っています。

それからこの販路開拓とか、どういうようなところに売っていきましようかとかあるいは売れるものづくりみたいな部分の商品開発の所などについては

様々な補助金やファンドもありますので、そういうのをぜひご活用いただければと思いますし、その活用のサポートをぜひさせていただきたいと思います。加工場の整備の、ハード整備の制度は現時点においては県ではないんですけれど、国にはいくつかファンドとかもありますので、そういうのを一緒になって獲得していくような取り組みもぜひ議論していきたいなというふうに思っております。それから商談会とかも積極的にやっていますので、やっぱり鶏・卵みたいな、なんていうんですかね、加工場を整備したので売れていくというものもあるだろうし売れていくものがどんどん増えるから加工場が必要だねとかたち、両方必要だと思いますので、我々特に、売る方の商談会とかを含めた加工場の整備の必要性が高まっていくようなそういうものについても、ぜひ一緒になって取り組んでいきたいなというふうに思っています。

それからエコノミックガーデニングの話ですが、本当に名張は関西圏へのアクセスもいいですから、朝農業やって昼からビジネスみたいなのも全然できると思いますし、名張で創業して朝農業やって昼ビジネスみたいなライフスタイル、特有のライフスタイルというのを提供できる可能性のある場所だというふうに思うんですね。去年の1対1対談でこの亀井市長からご提案いただいて、この4月の末から東京の有楽町のふるさと回帰支援センターという所に三重県の移住相談センターを設置しました。だいたい4ヶ月で240件のご相談に来ていただいています、多くが「都会からちょっと近い、でもゆっくりした雰囲気の中で農業をやってみたい」とか、「そういう子育て環境のいいところでカフェやってみたい」とかそういうようなお話が多くて、「どこどこの〇〇に移住したい」という相談はほとんどなくて、「こういう感じのライフスタイルのあるところにこういうことができる所に移住をしたい」という相談が多いので、ビジネスと農業をやっていくようなライフスタイルであるとか、一定都市部にもアクセスがあってそういうようなことも体験できるようなそういうライフスタイルがあるよ、というのを売っていくということができるという意味では、非常に名張は強みを有していると思いますので、ぜひこれからも、うちが受けた相談は市町の皆さんにご相談しながらつないでいく作業をしていますので、そういうのをぜひ活用いただければと思いますし、その移住相談センターでは起業相談デスクというのを東京と大阪でそれぞれ年4回やろうというふうに思っていますので、そういうところで「こういう所で起業したいんです」という人をつかまえて、名張のこんなにありますよとお伝えしたりとかもできるかなと思っていますし、あと色々な県としての創業するときの金融支援とか、融資で利子を優遇しますとか、そういう初期費用の所を補助しますという制度も多々ございますので、そういうものを複合的に活用する方策も我々も一緒になって考えていきたいなというふうに思っています。

名張市長

はい、ありがとうございます。現にもう都市部から「自分の家族が食べるものは自分で作りたいんや」という人なんか、ある地域へ来られて、そこで農業の達人がそれを指導してやられているとかいう所もありましてね。その方は、家でパソコンがあれば、かなりの部分ができるという仕事ですので、会社には1週間に2回か3回でいいとか、そういう方についてもそういう生活が叶えられるようなそんな体制を作っていければと、そんなふうに思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと存じます。

3 空き家の活用 ①リフォーム助成の充実

名張市長

それでは2つ目の大きなテーマということで、空き家の活用ということでございますけれども、ひとつは、人口減少社会になりまして、新築の物をどんどん作っていくよりは、今ある中古住宅をリフォームしてより有効に活用してこうと、国のほうでもかなりそういう方向に転換をしてくれているわけございまして、名張も空き家はたくさんあるものですから、若者の定住の促進にもつながるといことの中で、これをどんどんやっていきたい。県も「まち・ひと・しごと交付金活用事業」として空き家リノベーション支援事業ということでしていただきまして、リフォームするのに1件上限100万円の補助を出しますとこのことで、実は第1号も名張の方に決まったわけございまして、これが喜びのご夫婦でございまして、小さいお子さんをお持ちの方が名張へもこの事業で、リノベーション事業で来ていただいたわけございまして、「PRに写真撮らせていただいてもよろしいか？」と聞いたら「どうぞどうぞ」と協力いただいた方でございますが、実はまだまだ複数の希望されている方がたくさんいらっしゃるんです。ですので、できることなら今、県全体で1,800万円とそういう予算でございまして、これは非常に有効だなというふうに思っておりますので、これの拡大について知事のお考えをちょっとおっしゃっていただければというふうに思いますので、これがひとつ。

知事

ありがとうございます。めちゃくちゃ笑顔ですね。この方どこからおみえになったんですか？

名張市長

この方どちらから来ていただいたんかなあ。

知事

まあ、いずれにせよ県外なんですね。

〔事務局〕

奈良です。

知事

奈良。ああ。この補助事業自体、県外からの移住者の方が空き家をリフォームしていただくときの費用を、一部助成しましょうという事業ですので、こういう形で利用していただいて、県外から来ていただくというのは大変ありがたいと思いますし、今、日本全体も空き家が非常に多くて、県も、大体全国平均ぐらいですけれども、空き家比率が13%という状況ですので、建っている建物の1/7ぐらいは空き家になっているとそういうような状況で、空き家というのはそれぞれ防災上も景観上も非常に重要な課題であるというふうに思っています。今回、地方創生の交付金を活用して移住と空き家のリノベーションを組み合わせた事業を立てた、というようなことで、確かに亀井市長がおっしゃっていただいたように元々額が少ないじゃないかというようなご指摘もありましたので、これは2月補正でやったやつで半年ぐらい経ちましたので、9月の上旬に各市町さんの執行状況調査をやらせていただいて、その状況を見て追加配分をしていくようなことも考えたいというふうに思っています。さらに、今後、年度を越えてということについては、また色々な財源などの様子を見ながら、あるいは地方創生交付金の状況なんかを見ながら、各市町の執行状況とかも見て、色々なニーズなどもご相談させていただいて考えていきたいなというふうに思います。

名張市長

はい、ありがとうございます。東京からというのは少ないかもしれませんが京阪神からかなりそういう希望の方もいらっしゃるようでございまして、今希望されている方も複数いらっしゃいますものですから、ぜひこれまた拡大いただきたいな、というふうに思っております。

4 空き家の活用 ②特定空き家等に対する措置

名張市長

続いて最後のテーマですが、国が空家対策推進特措法というのをスタートさせましたけれども、当市も法の趣旨にのっとりまして条例をこの9月の定例会

にあげていきたいと思っております。それは何かといいますと、空き家を積極的に活用するということに加えて、老朽化して危険な住宅、これを行政が代執行できる、やり易くなったということをごさいます、解体・撤去をやっていこうというようなことをごさいます。ところが1件処理するのにかなりの費用がかかるわけです。それで、請求できる方がいらしたらいいんですけども、相続放棄されているとか、支払い能力がありませんとかこういうふうな方々がいらっしゃるかもわかりませんが、そういうために国とか県は財政措置を講ずるものとするということが法律の中に書かれているわけをごさいます。それで県のそういうルール等もこのことについて作っていただいたら大変ありがたいなあとというふうに思っております。これ見本的なものが国の方から出されていますけれども、そういうようなかかった費用に対して国が2/5、地方公共団体が3/5をどう分けていくかということと、民間がなざる場合でも、国が2/5、地方公共団体が2/5、これは県と市ということかもわかりません。そして民間が1/5。こういうことをごさいます、危険家屋のほうを撤去すると、こういうことに対してのこれから県としてのそういうルール作り、これを考えていかれる気持ちがおありかどうかというのをちょっとお聞かせいただければと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。今、先ほども申し上げましたような形で、この空き家というのが防災上も景観上もまた地域の資源上も大変重要な課題だというふうな認識に我々もなっている中で、県がどういう役割を果たしていくのかというようなことを特に特措法を受けて来年度に向けていろいろ考えていかなければならないというふうに思っているところです。

今、国がモデル的に示していただいているやつ等で香川県とか高知県とかがそういう事業を実際にやっているところがあるんですけども、そういうところも国の社会資本整備交付金というやつを使っていただいていますので、そういうものとの兼ね合いとか、あと今高市総務大臣が非常に空き家のことに関心が高いらしくて、特別交付税で空き家の除却したものとか解体とかにかかった費用とか、あるいは活用にかかる費用を一定の空き家対策計画みたいなものを作れば特別交付税で面倒見ましょうか、ということも議論したいというような話もありますので、それが出れば一番いい話だと思いますので、そういう国の動向もみながら、いずれにしても来年度に向けて県の役割はどういう所でどういう所に財源や色々なルール、あるいは技術的支援そういうようなことを含めてやっていけばいいのかというのを、来年度予算に向けてよく議論していきたいなとそういうふうに思います。

5 伊勢志摩サミットについて

名張市長

はい、ありがとうございます。それではですね、県のこれから当面する課題の最大のテーマがサミットの成功とこういうことであろうかと思えます。それで、これが一部の所でやってたらしいなということではなくして、県民を挙げて盛り上げていこうと、こういうふうなことは皆やっていきたいという思いはあるわけです。ですので、それは直接ということでもないわけでございますけれども、名張市民の方もそういう思いをお持ちの方もいらっしゃるわけですし、また名張には全国ブランドのお酒であったり、あるいはまた果物であったり肉であったり色々あるわけでございますので、また、そういうところでも、参加できる場面があったらお願いをしていきたいなとこんなふうにも思っておりますので。これはしかしながら、なかなか国が決めることでもありますので、難しい部分もあろうかと思えますけれども、三重県内には全国ブランドのものがたくさんあるわけでございますので、できるだけそういうところで参加が叶うようなことも、また考えていただければと、こんなふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたしたいと存じます。

知事

はい、ありがとうございます。亀井市長には伊賀市長さんと一緒にこのサミット、こういう貢献が名張としてもできるぞと、伊賀地域としてもできるぞというご提案を先般も県庁まで来ていただきまして本当にありがとうございます。私がサミットの成功に必要な要素というのを3つ言っているんですけども、ひとつは安全であること。来ていただいた方も安全で、暮らしていただいている方も安全であるということが一番大事だと思いますから、ひとつは安全であること。それからもうひとつは全県の取り組みであったこと、ということだと思います。3つ目はサミットのあとにちゃんと何かが残ったということであると。この3つが重要な要素だと思っておりますので、2番目の県全体の取り組みになるように、ということをいかにやっていくかということだと思っております。今県民会議等も作ってやらせていただいておりますが、サミットの当日の1泊2日のところに首脳に動いてもらうというのは中々大変なことではあるものの、各国の首脳が行くので事前に色々その県を見ておこうという先遣隊の人たちとか、海外のプレスツアー、これも大体20回ぐらいやりますけれども、すでに2回、ASEANの10か国と中東の5か国、ASEANの10か国は四日市と菰野、中東の5か国は伊勢と鳥羽を回ってもらいましたので、全県を回っていただこうと思っておりますので、名張を含む伊賀地域にもプレスツアーで来てもらうということはぜひとも考えたいというふうに思っておりますし、あとなんといつても1品でも多

く三重県全体の食材をしっかりと提案をしていくということを考えています。今、こういうのどうですかという募集をさせていただいておりますので、ぜひ市町からも含めてご提案をいただければと思うんですが。洞爺湖サミットの時は、残念ながら、と言ったら当時の福田総理に怒られるかもしれませんが、乾杯のお酒は北海道の洞爺湖でやっっているながら静岡県の磯自慢で、器は輪島塗であったというそういう大変残念なことを聞いてしまっておりますので、それは三重県内のお酒で三重県の器で出来るものであった方がいいと思っていますので、そういう提案を、8年前の洞爺湖の時もそうですけれど、特に最近今年になって行われている仙台での国連防災世界会議であるとか、あるいは5月に福島県いわき市で行われた太平洋・島サミットとか、地域の食材をしっかりと使おうというのを政府も十分意識をしてもらっておりますので、そういう提案をしっかりとしていきたいというふうに思っています。

あとは、ジュニアサミットといった形での若者たちをしっかりと県内にも回ってもらうようなそういうジュニアサミットの開催をやろうとか、あと子供たち、できれば県内の高校になるかわかりませんが、少なくとも高校は、例えば1校1国プロジェクトみたいな形で、例えば、名張のこの高校はアメリカのことを対応して、アメリカのお出迎えとアメリカのことを勉強するとか、そういうような学校ごとに勉強してもらってお出迎えやおもてなしもってもらうようなこととかも考えたりとかはしたいというふうに思っていますので、いずれにしても全県の取り組みにしたいというふうに思っていますから、あとは「祝伊勢志摩サミット！」みたいなのを使っていただいて盛り上がっていただくのは全然結構ですので、皆さん色々な団体とかの忘年会とか新年会とか総会とかあった時に「祝伊勢志摩サミット！第〇回〇年度記念総会」とかやっていただいたりとかですね、協賛も受け付けておりますので、警備の皆さんにこの飲料をどうぞとかの協賛とかも受け付けておりますので。もちろん、寄付も受け付けておりますので。そんなことで、全県の取り組みとなるように我々としてはしっかりと情報提供をさせていただきながら、こんなことで動いているよというのを知っていただく努力をしっかりとやっていきたいと思っておりますので、ぜひ皆さんもご関心を持っていただけるとありがたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いしたいと思います。

名張市長

どうもありがとうございます。今日はそれぞれの項目について実り多い前向きのご答弁をいただいたものとこんなふうに思わせていただいておりますので、これからもよろしくお願いをいたしたいと存じます。また、知事には本当にいつもものすごく忙しい中で、サミットが入ってきてより過密なスケジュ

ールとなったわけでございますけれども、そんな中お繰り合わせいただいて、ようこそ名張へ来ていただきましてありがとうございます。どうかこれからも一層のご活躍をいただくことを願わせていただきたいと思います。ありがとうございました。

どうもみなさんありがとうございました。

(3) 閉会あいさつ

知 事

亀井市長ありがとうございました。若者の定住定着に向けて大変重要な議論ができたと思っていますし、平日の朝、足元もあまりよろしくない中多くの皆さんにお越しいただいたことも感謝申し上げます。ブドウがおいしくて今たくさん名張の皆さんからブドウ等をいただいております、うちの息子がブドウ大好きなものですから、かわいいかわいい3歳の息子が名張のブドウを今たくさんいただいて元気に過ごしています。そういう自分の子供もそうですが、三重県の子供たち、次世代の子たちが三重県で住んでよかったなと思えるような、三重県で暮らし続けたいなというように思えるような形にしていくのが私たち大人の責任であるというふうに思っていますので、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。